



3年学年だより

発行日:令和 8 年 5 月 29 日(金)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:二上 直子 NO. 2



平和への祈りを込めて

副校長 本江 聡美

昼休みに放課後にと、校内に歌声が響きわたる季節となりました。6 月 11 日の合唱コンクールがとても楽しみです。申し遅れましたが、今年度も副校長を務めます本江(ほんごう)です。3年目となります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、5月29日は横浜大空襲のあった日です。幕末の開港以降、貿易や重工業(鉄鋼や造船など)が盛んとなり発展した横浜。2万人を超える犠牲者が出た1923年9月の関東大震災からようやく復興し、人口100万人を超える都市となっていた街が再び火に包まれました。

1945年5月29日未明、太平洋のマリアナ諸島の基地を発進した B29 爆撃機の編隊517機は、午前9時20分ごろに横浜上空へ。午前10時30分までのたった1時間ほどの間に、総数43万 8,576 個(2569トン)の大量の焼夷弾が、投下されました。この焼夷弾は小型のクラスター爆弾で、密集した木造家屋を焼き払うのに適した攻撃でした。雲一つない快晴の青空が一変、瞬く間にあたり一面は黒煙に覆われ、真っ暗に。降り注ぐ焼夷弾で横浜の市街地に一気に火災が広がり、中区・南区・西区・神奈川区を中心に炎に飲み込まれました。ある方の体験談によると、編隊のようすは「西の空一面を覆いつくす黒い塊」に見え、「街全体から黒に近い灰色の煙があがり、狂った竜が暴れまわっているよう」だったといいます。

住民だけでなく、通勤や通学途中の人々が逃げ惑う大混乱となりました。京急の黄金町駅では、上下線の電車がちょうど到着したときに空襲警報が発令されたため、乗客が地域の人と一緒に高架線下(鉄筋コンクリートだったので安全と思われたそうです)に避難していました。そこへ焼夷弾数発が命中し、ホームから地上に向かって火砕流が発生したそうです。駅周辺には焼死体が積み重なり、逃げてきた人は熱いからと遺体の下に逃げ込み、さらに積み重なっていったといいます。大岡川も多くの人が飛び込み、遺体が重なるようになったことでさらに死者が出たそうです。「まるで地獄そのものだった。」「私はあれ以上の地獄を知らない。」との証言もありました。

直後の公式発表によると死者は 3,650 人とされましたが、住民以外の犠牲者も多かったため実際には 8,000 人以上になるともいわれています。当時の横浜市の34%が焼け野原となり、人口の3分の1が被災したそうです。

戦後81年。第二次世界大戦を実体験として語れる方はどんどん少なくなっています。一方、戦争や紛争を体験している人は今も世界中で増えています。私たちには何ができるでしょうか。戦争の記憶を共有・継承し、未来に生かしていくことで、平和が一日でも長く続くように、世界中に広がっていくように、そして私たちがその一助となれるようにしていきたいですね。



横浜市 HP より(横浜の市街地に降り注ぐ焼夷弾)